共同研究　二神家・二神島の歴史・民俗研究

期間：2016 年～
［所員］前田禎彦　　小熊　誠　　関口博巨
［客員研究員］田上　繁　　萬井良大
［特別研究員］鈴木江津子

「二神司朗家文書」の整理・保全の進捗状況

前田　禎彦

「共同研究　二神家・二神島の歴史・民俗研究」は、「共同研究　瀬戸内海の歴史民俗」の成果を継承し、2016 年度から始まった。2018 年度は、メンバーの田上繁が定年退職したのに代わって、新たに所員となった関口博巨を迎えて「二神司朗家文書」の整理・保全作業に継続して取り組んだ。

写真１　害虫駆除対策をして保管された資料

写真２　二神司朗家から運び出されたスケッチブック

現在、「二神司朗家文書」のほとんどは日本常民文化研究所が所蔵しているが、一部は故二神司朗氏宅に残されたままであった。しかし、無人となった旧宅の傷みが激しくなったため、神奈川大学への移送を前提に残置文書の整理をすることになり、前年度末、2018 年 3 月に二神島に赴き、現状を確認した上で準備作業に取りかかった。

それを踏まえ、本年度は、2018 年 6 月 1 日～3 日にかけて、所員の関口博巨・前田禎彦、客員研究員の萬井良大、大学院生の佐藤夏美・藤原雅治・山室陸、職員の窪田涼子の 7 名に、現地の豊田渉氏・浜田久男氏が加わり、画家であった司朗氏の描いた絵画などを除き、古文書・日記・書簡・アルバム・スケッチ帳・襖など、二神家・二神島の歴史を知るのに役立つと思われる資料を選別して神奈川大学に移送する準備を行った。その後、夏休みに予定していた発送作業は西日本豪雨災害の影響などにより遅れてしまったが、翌 2019 年 1 月 29 日、30 日に所員の関口博巨・前田禎彦、職員の

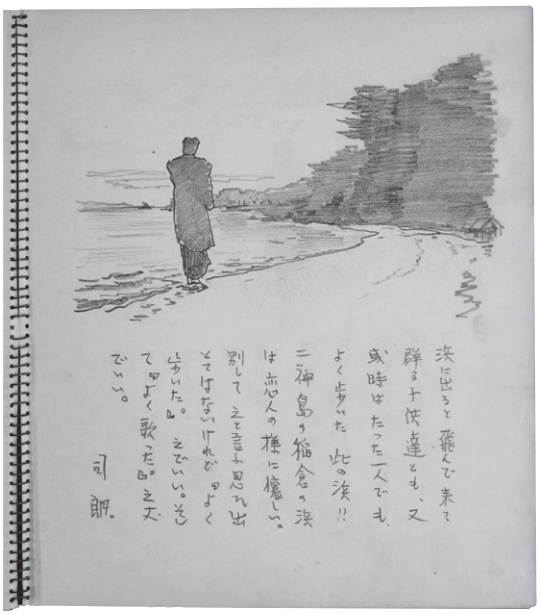

写真３　スケッチブックに描かれた二神島の浜（二神司朗作）

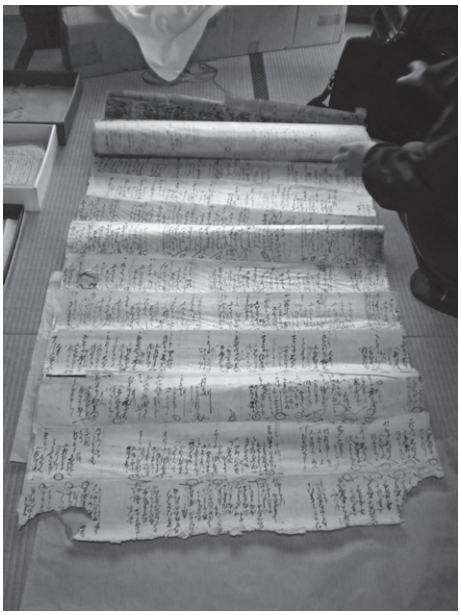

写真４　法善寺に残されていた柳原二神家文書

窪田涼子の３名が再び二神島に出向き、無事発送することができた。なお、その際、立ち会われた二神系譜研究会の二神英臣氏から、柳原二神家文書を含む法善寺（松山市北条）の襖下張り文書もお預かりすることになった。

今回、移送した資料のうち、司朗氏の描いたスケッチ帳には、昭和の戦前期、1930年代を中心に昔の二神島の景観や人びとの様子を描いたものが多く含まれている。2019年度には、これらを整理して『島のスケッチ帖』を刊行する予定である。既刊の『島の写真帖』（Vol. 1～4）とともに、往事の二神島をしのぶ貴重な手がかりになることだろう。

写真５　平田玉圃作と判明した二神司朗家から搬出された襖絵

最後に、2019年３月開催の恒例である第22回常民文化研究講座「古文書修復実習」の際、襖の下張り文書の剝離実習に今回移送した襖を用いたところ、参加されていた広島県立歴史博物館の久下実氏の指摘により、その襖絵が幕末・明治期の広島の画家平田玉圃（1813-1884）の手になるものであることが判明した。二神家との関係など詳細は、久下実・豊田渉「二神家旧蔵襖絵について」（『民具マンスリー』第52巻７号、2019年）をご覧いただきたい。

■ 2018年度の活動

○二神司朗家文書の整理・保全　2018年６月１日～３日　愛媛県松山市二神　前田禎彦・関口博巨・萬井良大・窪田涼子、佐藤夏美・藤原雅治・山室陸（院生）
○二神司朗家文書の搬出　2019年１月29日～30日　愛媛県松山市二神　前田禎彦・関口博巨・窪田涼子
○二神司朗家文書の燻蒸と収蔵庫への搬入　2019年２月１～８日、２月12日